
傘一つ

在形 直

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傘一つ

【Nコード】

N7906M

【作者名】

在形 直

【あらすじ】

舞台は江戸時代。どうしようもない夫とやさしい妻のちょっとした風景。やさしい気持ちになれる作品にしたつもりです。ほっと一息したい人とかどうぞ。超短編です。

(前書き)

昔書いたもの。

男女の微妙な心の機微を表現したく書いた記憶があります。

「またお前、お雪さんまたせて」
そう言つて馬頭のどんべえが赤ら顔のためき顔でやえべえを見る。
「いいんだよお、それが妻の勤めつてえ奴なんだ」
やえべえが声を張つていうが力がない。

「もう見栄つ張りは困るね、ほらもう雨やまないよ、せつかく迎え
にきたんだから、一緒にお帰り」
天心の女将さんがやれやれと声をあげた。

「おめえ もうすつぴんかんだろ、はつたまけたも銭がなきやどう
しようもねえーつてもんだよ」

「だからよお」やえべえが甘えた声をだす。

「だめよ 貸しちゃあ、お雪さんまた泣いちゃうわよお、ほら や
えべえさん」

「ああ シャーねえ」

そついつてやえべえが門へ向かつた。

戸口にお雪の影がみえる。

「おい かえるぞ」

傘を広げ 雨中をのっそり歩く。

「あーあ おめえのせいで今夜も負け越しだい」

お雪はだまつたまま 顔をうつむけている。

気まずい事は元から逃げ腰のやえべえが我慢できずに雨の中を走っ
ていく。

「ちよいとあんた」お雪はやえべえの後を追つた。
暗がりによえべえが転び ”うお” と声をだした。

「ばかねえ 本当に」お雪が泣きそつな顔をした。

それを見てやえべえがあわてて「ほらよ、ちょっと水浴びで頭ひやした所でよお」

と ひょうきんな声をだした。

お雪が変わらず泣き出しそくに顔を下にした

「ほらよ」

やえべえがそこに生えてあるアジサイをひとつ差し出した。

「馬子にも衣装じゃなくてお雪にもあじさいってかあ

：ほら綺麗じゃないか、お雪よお なあ泣かないでくれよ なあ

なっ もう博打しないからよお ごめんよ お雪」

お雪の泣いた顔がこまった顔をして また泣いた顔になった。

「ばかねえ 本当に こんなに着物汚して 早くはいりんさい」

ため息ひとつお雪がやえべえの手をひっぱった。

アジサイが一面 雨に濡れて咲いている。

「アジサイきれいねえ」

今気づいたようにお雪は声をあげ、ぼーっとそれを見た。

「そうだなあ やえべえとお雪のアジサイ渡りって奴だなあ」やえ

べえが静かに答えた。

「ほらアジサイ狩りもなあ」手にあるアジサイを上げて、よっ！と掛け声をあげた。

2人が仲良く傘にはいり歩いている。

やえべえが陽気な声をあげている。

しばらくすると やえべえとお雪の笑い声がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7906m/>

傘一つ

2010年10月11日03時20分発行